

# 2012年度 CSRレポート

## 第1 はじめに



2012年度の日本は「アベノミクス」という言葉に代表されるように、政治・経済の状況が大きく変化してきました。放送界でも、完全地デジ化という大事業を終えた余韻に浸ることもなく、4K、8K、あるいはハイブリッドキャストといった新たなイノベーションの波が押し寄せ、これからの生存をかけた戦略がいま必要となってきました。

放送事業を継続すること—これが最大のCSRと言われる程の厳しい環境下で、私たちはいま、改めてコンテンツを作る力を鍛えあげようとしています。コンテンツ制作力こそが、放送事業を支える源泉だからです。

「エリアで最も必要とされるコンテンツメーカーになる」

「ライフラインとして信頼される放送局になる」という経営ビジョンは私たちの目指すべき指針であり、絶え間ない努力を惜しむなという自戒のスローガンでもあります。

2012年度下期は、反省しなければならないいくつかの「過ち」を起こしてしまいました。このCSRレポートは、その「過ち」も含めた関西テレビの活動報告です。

視聴者の皆様には、このレポートを是非ご覧いただき、厳しいご意見や励ましをいただければ望外の幸せです。

代表取締役社長 福井澄郎

## 第2 コンテンツメーカーとしての取り組み

---

正確かつ迅速な報道や良質な娯楽を提供する番組、コンテンツを制作し、伝えることこそ当社の果すべき社会的役割であると確信しております。

当社が全国ネットとして手掛けている火曜日22時のドラマ枠では、自社制作による「37歳で医者になった僕～研修医純情物語～」、若者に圧倒的な支持を得た「GTO」、映画監督の是枝裕和氏と組んで話題を呼んだ「ゴーイング マイ ホーム」、独自の世界観を持つサスペンス「サキ」と多様なドラマを放送しました。

地域密着型の朝の人気番組「よ～いドン！」は100週連続で占拠率30%を超える快挙を達成し、阪急百貨店・阪神百貨店とのコラボレーションで行った企画催事には多くの方に来場いただきました。また、この番組の人気コーナー「となりの人間国宝さん」は地域の活性化に寄与し、「これこそテレビ局ならではのCSR」との声も頂いて、多くの視聴者に親しまれています。

関西のお笑い文化の歴史を継承する「上方漫才大賞」も47回目を迎えました。その関西お笑い文化の重鎮、桂三枝さんが「六代 桂文枝」を襲名されたのを記念して、単発番組「桂三枝とTVの時代～六代文枝 偉業伝説～」を放送しました。また、笑福亭仁鶴さん50周年記念ドラマとして放送した「だんらん」は全編iPhone5で撮影するという業界初の試みを行いました。

スポーツにおいては、ロンドンオリンピック開幕前の7月7日に「今だから語る これが世界の祭典だ！」を放送。開催期間中は、キャスターを現地に派遣して独自の視点から「スーパーニュースアンカー」で中継映像を届けました。終了直後の8月15日深夜には、女子マラソン代表選手に密着し惨敗の原因を探ったドキュメンタリー「ロンドンの敗北を忘れない～日本女子マラソンに明日はあるのか～」、さらにオリンピックで活躍した女子選手の本音に迫るトーク番組「ロンドン大感謝祭！アスリート女子会SP！」を放送しました。32回目を迎えた「大阪国際女子マラソン」は、デッドヒートの盛り上がり伝えることができました。

一昨年3月に発生した東日本大震災の福島第一原発事故に端を発したエネルギー問題は、原発依存率の高い関西地方の夏のエネルギー問題として大きくクローズアップされました。ニュース番組では、大飯原発の3号機4号機の再稼働問題や計画停電、原発を抱える地元の人々の思い、そして夏の電力需要の検証など様々な視点からエネルギー問題をとらえ、分かりやすく視聴者の皆様にお届けしました。

また、FNN（フジ・ニュース・ネットワーク）の東北応援体制を継続し、岩手、宮城、福島の系列局と連携をとりながらローカル特集取材も続けています。

12月の衆議院選挙では、東京からの独自中継など、これまでの選挙特番を上回る取材体制をとりました。さらに選挙直後には、いち早く自民党安倍総裁の生出演を実現しました。

ドキュメンタリー番組では、橋下大阪市長の問題提起で揺れた文楽をとりあげ「文楽

のゆくえ～『橋下改革』と世界遺産～」「夢の途上～人間国宝の弟子たち～」の2本のほか「船乗りたちの戦争～徴用された民間船の記録～」「ずっと笑顔で生きてゆく～和歌山県那智勝浦町 豪雨災害から一年～」「境界を越える道～コリア国際学園の挑戦～」などあわせて6本を制作しました。



「文案のゆくえ～『橋下改革』と世界遺産～」 「船乗りたちの戦争～徴用された民間船の記録～」「ずっと笑顔で生きてゆく～和歌山県那智勝浦町 豪雨災害から一年～」

こうした地道な番組制作は、様々な方面で評価され、下記のように国内外で多くの賞を受賞することができました。

作品名	放送日	受賞内容
<b>ドラマ・バラエティ</b>		
「レッスズ」	2011/11/27	US 国際フィルム・ビデオ祭エンターテイメント部門 金賞
「ピロートーク」	2012/3/22	日本民間放送連盟賞テレビドラマ部門 優秀賞
「THE GOLDEN BATTLE」	2011/12/11	日本民間放送連盟賞テレビエンターテイメント部門 優秀賞
<b>ドキュメンタリー・ニュース</b>		
「三人の酒蔵」	2011/2/12	日本映画テレビ技術協会 映像技術奨励賞
「ゆっち、25 歳」	2011/11/26	上海テレビ祭 ベストドキュメンタリー部門 入賞
「余命 2 年の動物園長」	2011/7/11	ABU(アジア太平洋放送連合)賞ニュース部門 最優秀賞
「」		AIB(国際放送協会)メディアコンクール テレビ・短編ドキュメンタリー部門 優秀賞
「」		アジアテレビ祭ニュースレポート部門 最優秀賞
「労働者の街・釜ヶ崎に響くジャズ」	2012/7/3	関西写真記者協会テレビ・ニュース映画の部 協会賞
「桜 2012」	2012/4/26	関西写真記者協会撮影部門賞 金賞
「貝塚ドリームス解散の波紋」	2012/3/29	関西写真記者協会スポーツ部門 銀賞
<b>映画</b>		
「阪急電車」	2011/4 公開	日本映画批評家大賞 新人監督賞
<b>技術</b>		
「ヘリコプターの空撮カメラ追尾システム・伝送プロフィール表示システム」		日本民間放送連盟賞技術部門 優秀賞



▲ 「ピロートーク～ベッドの思惑」



▲ 「THE GOLDEN BATTLE」



▲ 「余命 2 年の動物園長」



▲ 「ゆっち、25 歳」

番組制作に欠かせないのが「テレビ人としての倫理」です。当社では、放送倫理会議を毎月開催し、番組を含め放送全般の倫理に関する課題を討議しています。また外部の有識者からなる「オンブズ・カンテレ委員会」からは、第三者の視点で番組などを中心に、広く論評、注意喚起、提言を頂いているほか、番組審議会の委員からも貴重なご意見を承っています。

視聴者の皆様からのご意見は、視聴者情報部が承っています。この1年間で、問い合わせが 33,650 件、苦情が 11,857 件、要望や感想が 24,958 件、その他 4,281 件のご意見をいただき、番組制作に反映できるよう迅速に制作現場に伝えています。

しかしながら反省し改善すべき点もございます。兵庫県尼崎市で起きた連続死体遺棄事件の報道では、主犯とされる被告人の顔写真として全く別の方の写真を放送する間違いを起こしました。ご本人や関係者の方には深く謝罪し、再発防止に努めています。また、大阪市職員の兼業問題の実態を報道したニュースでは、内部告発者のインタビュー部分に別人の映像を使用していました。現在、BPO 放送倫理・番組向上機構でご審議いただいておりますが、放送倫理の徹底が不十分であったと認識し、更なる向上に努める所存です。

イベント事業では、地元関西を中心に皆様に楽しんでいただけるように、数多くの演劇・ミュージカル・コンサート・展覧会などを開催しました。中でも「ツタンカーメン展～黄金の秘宝と少年王の真実～」は、長い年月を経ても変わらないエジプトの秘宝の魅力求めて、関西での総来場者数が 933,130 人を数え、関西で開催された美術展の中で史上 2 位という記録となりました。

映画事業においても、幹事として企画製作した『ボクたちの交換日記』をはじめ、3D効果が評判を呼んだ「貞子 3D」など7本の映画に携わりました。

新しいメディア時代に対応する試みとしては「GTO」などのドラマの動画配信や、スマートフォン向けアプリ「Hello Kitty Kawaii Town」を世界に向けてリリースするなど意欲的に取り組んでいます。

### 第3 ライフラインとしての取り組み

東日本大震災は、テレビの必要性が改めて見直されるとともに、私たちもテレビの役割を改めて考え直す契機になりました。当社を含むフジテレビ系列局では、VTR番組や再放送が続いていた午後の時間帯を大きな課題と捉えました。そこで4月からは、午後帯に全国ネットの生情報番組を編成し、その日に起きた事件事故などに全国的な対応ができるようにしました。また災害時の緊急放送対応に関しても引き続き検証を行い、フジテレビとの連絡回線の強化や、フジテレビが被災した場合に当社から緊急特別番組が放送できるように確認作業を行っています。

データ放送事業では、災害情報の速報性を高め情報に簡単にアクセスできるよう工夫を施しました。トップ画面にタブ形式を取り入れることで、各種気象・災害情報へのアクセスが容易となり、登録した郵便番号エリアの気象・災害情報に連動させています。また津波が発生した場合には、その概要を割り込み表示しています。さらに土砂災害警戒情報、竜巻注意情報、記録的短時間大雨情報の表示を新たに加えました。

放送の維持、安全にも取り組んでいます。当社が被災し生駒送信所に番組を送れなくなった際にも放送が継続できるように、生駒送信所に他局の放送を衛星受信するための設備を設置しました。また、生駒送信所の非常用発電機の燃料タンクを増設し、電力供給が止まっても7日間は放送できる体制を整えました。本社屋の地震・津波による電源喪失への対策として、地下2階の燃料タンクおよび燃料ポンプの耐水化を図るとともに、新たな油送管を設置しました。また、上層階に高圧予備電力の引き込み設備も設置しています。浸水対策では車路、階段、エントランスなどの開口部に新たな防水板を設置し、災害に備えています。



▲耐水性オイルタンク



▲エントランス防水板

## 第4 メディアリテラシー推進活動への取り組み

当社のメディアリテラシー推進活動は、本格的に取り組むを始めて5年になります。全社員に意識を浸透するため、各部署が参加する社内横断的な「こころでつながるプロジェクトチーム」を設け、その推進エンジンとしています。

例えば「出前授業」は、青少年へのメディアリテラシー教育の一環として、ほぼ1カ月に1校のペースで社員が学校を訪れ、被害者報道の必要性につき高校生と意見交換したり、相手に伝わる話し方を小学生に講義したりしています。また「映像作品制作支援プログラム」では、撮影機材や編集用パソコン一式を高校の放送部に寄付し映像制作を支援しています。関西大学社会学部との間で進めてきた連携講座「マスコミ制作実習」も4年を数え、今年度上半期は東日本大震災に関連して、「今、私たちができること」をテーマに30秒のメッセージビデオの制作を行いました。こうした活動と並行して「テレビのミカタ」を毎月制作・放送しており、メディアリテラシーの実践活動と効果的に連携させています。



▲出前授業（「報道と人権」についての講義の様子） ▲（「相手に伝える」話し方についての講義の様子）

これらの活動をイベントとして集大成したのが、3回目となる「オープンスクール@カンテ〜レ」です。当社のスタジオ「なんでもアリーナ」では、テレビ局ならではの公開授業を行いました。公開空間「アトリウム」では、ハイスピードカメラの体験コーナーや、テレビ中継車の特別公開などに約1700人の方が来場され、「番組制作の過程がわかり、物事の見方が変わるきっかけになった」などの感想を頂きました。



▲「オープンスクール@カンテ〜レ」での公開授業の様子 （写真左）1限目 （写真右）3限目

## 第5 社会活動への取り組み

東日本大震災の被災地は、いまだ復興の道半ばです。当社では、社内横断型の「チャリティ委員会」を設け、「関西テレビ災害救援募金」として、さまざまな方法で被災地支援の募金を行っています。夕方の「スーパーニュースアンカー」では、募金を呼びかけるスポットを放送し、アナウンサーによる本社前での街頭募金活動も、月1回のペースで行っています。「アナウンサー朗読会」では募金箱を設置し、来場された方々からの募金をいただきました。「3000人の吹奏楽」をはじめとする事業局主催のイベントにおいても募金活動のほか、収益金の一部を災害救援募金に寄付しました。その結果、昨年を上回る2400万円近くの募金が集まり、日本ユニセフ協会と日本赤十字社を通じ、復興支援・義援金として役立てております。

また、39回目を迎えた「FNSチャリティキャンペーン」においても、総務部の自動販売機手数料募金やメディア事業部のホームページバナー広告募金、さらに社内にある不要書籍の売却など工夫を凝らした募金活動などで約350万円の募金を集め、日本ユニセフ協会を通じ、チャドの子どもたちのために役立てました。

環境への負荷低減に関しては、2011年度に第1、第2スタジオの照明の一部にLEDライトを導入して、約6%のCO2削減を行いました。今年度は、「なんでもアリーナ」スタジオの一部照明にLEDを導入しました。

また、例年通りクールビズ・ウォームビズによる空調の室内温度設定のコントロール、社屋内の照明の間引きや一部消灯、パソコンの節電設定の徹底など様々な対策に取り組みました。節電期間中は、社員の節電意識を高めるために「前日の電力使用量」の数値を社内LANシステムに掲出して削減率を共有しました。この結果、2012年度の電力削減率は21.0%となりました。



▲アナウンサー街頭募金



▲「3000人の吹奏楽」

「ダイヤモンドカップゴルフ2012」では、選手会・(社)日本ゴルフツアー機構協力のもと、チャリティオークションやチャリティバザーを開催し、各所に募金箱を設置し、ジュニアゴルファーの育成支援や環境保全活動に寄与しました。

大阪府の緑化を促進するために産経新聞とともに設立した「みどり基金」は20年目となり、2012年度は旧桜宮公会堂の緑化を行いました。野外活動を通じて健全な青少年を育成するという目的で設立した公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団は、設立34年となり、現在までに765名の青少年リーダーを社会に輩出しています。

また、当社のキャンペーン報道がきっかけで設立された「児童虐待防止協会」の「子どもの虐待ホットライン」活動に対しては、1990年以来支援を続けています。

地域とのパートナーシップを築く活動として、11月に扇町公園で行った「Go!Go!カンテ〜レ感謝祭」には、2日間で約2万2000名の方にご来場いただきました。同時に行ったCSR@カンテ〜レでは、北区役所や関西大学リサーチアトリエなど地元で活動する諸団体とともに、子どもたちを対象にしたプログラムを展開しました。

その他、メセナ活動として、関西フィルハーモニー管弦楽団など多くの文化団体にも支援を行っています。



▲関西テレビ青少年育成事業団



▲CSR@カンテ〜レ

## 第6 おわりに

最後までお読みいただき、ありがとうございます。

私たちは2007年1月の「発掘！あるある大事典Ⅱ」のねつ造問題をきっかけに、企業活動を広く公開してまいりました。このレポートは、2012年度の当社の活動について報告したものです。このレポートで、当社を少しでも多くご理解いただければ幸いです。

私たちは、自主自律の精神で番組を制作、放送し、視聴者の皆様から信頼される放送局を目指しています。「エリアで最も必要とされるコンテンツメーカー」「ライフラインとして信頼されるテレビ局」をめざし、今後も事業運営に当たってまいります。

当社は、今年開局55周年を迎えます。55年の長きにわたって当社が活動を続けてこられたのも、視聴者の皆様の温かいご支援のおかげです。視聴者の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。